

目で追う 20 年



地主敏夫司教叙階式

1988年1月15日 札幌パークホテル





▲
太田哲也師
新海雅典師
勝谷太治師
司祭・助祭叙階記念
昭和60年3月21日



▶
松村繁彦師
司祭叙階式
2000年3月20日



祝賀会で挨拶の松村神父



祝賀会での女性部コーラス

故 富澤孝彦司教

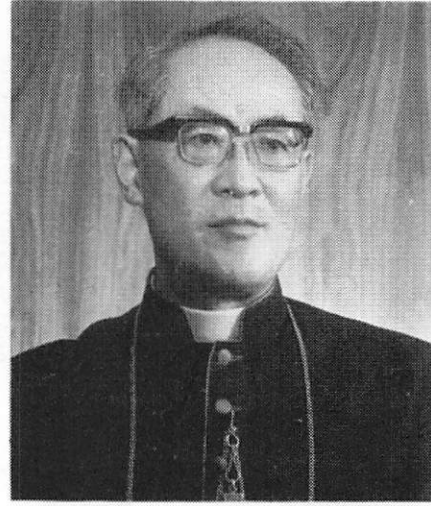


- 1911年2月12日 京都に生まれる
- 1937年3月27日 ローマ・ラテラノ大聖堂にて
司祭に叙階される
- 1946年4月 京都教区カトリック西陣教会
主任司祭となる
- 1952年12月11日 札幌教区長に任命される
- 1953年3月19日 札幌司教に叙階される
- 1988年1月4日 札幌教区長引退
- 1989年3月26日 薨去 享年78才

+

神を所有するものは—幸福である

アウグスチヌス再考録第一卷二章十一節



前 カトリック札幌司教

ベネディクト 富澤孝彦



富澤孝彦司教叙階記念（昭和28年）
教皇庁公使ド・フルステンベルグ大司教司式

帰天されたゆかりの司祭方

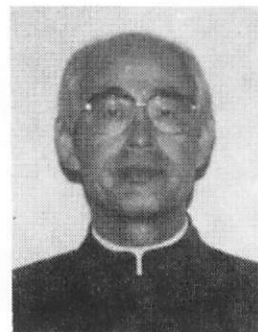


故 司祭 ヨゼフ 大友 良夫

この神は 世々 限りなく
わたしたちの神
死を越えて
わたしたちを導いて行かれる

(詩 48, 15)

昭和9年4月23日 札幌にて出生
昭和38年3月 司祭叙階
昭和62年10月27日 帰天

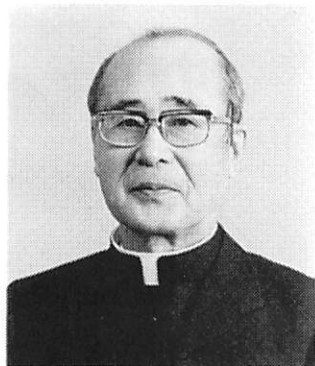


故 司祭 ステファノ 佐々木 羊三

ステファノは主に呼びかけて
「主イエスよ、わたしの霊を
お受けください」と、言った。

— 使徒言行録 7章59節 —

昭和6年2月24日 札幌にて出生
昭和33年3月 司祭叙階
平成3年2月9日 帰天



ヨゼフ
長坂 親秀 神父

1909年4月4日(明治42年) 函館に生れる
1935年3月15日(昭和10年) 司祭叙階
1994年11月5日(平成6年) 帰天 85歳

主よ、永遠の安息を彼に与え
絶えざる光を彼の上に照らしたまえ。



フランシスコ・ザビエル

中川 寿 神父

“平和を説き、福音をのべ伝え、
福音を告げ知らせる人の足は、
山々の上にあつてなんと美しいことか。” (イザヤ52-7)

略 歴

1914年 札幌で生まれる
42年 司祭叙階
42～43年 旭川、稚内教会主任
44年 応召(セレベス島)
46年 帰国
46～59年 室蘭、北見、俱知安、北26条主任
66～95年 北広島教会主任
96年 11月18日 帰天 82歳

十



使徒ヨハネ

林 忠実 神父

「神の聖なる御母よ、
わたしたちは、ご保護のもとに
はせよります。」

(ヨハネ・パウロ二世)

1912年 9月10日 出生・受洗
1937年 4月3日 司祭叙階
1998年 9月1日 帰天 享年85才

十



使徒ヨハネ

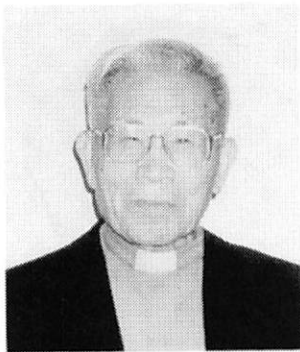
中 川 宏 神父

「父がわたしを愛されたように、わたしも
あなたがたを愛してきた。わたしの愛に
とどまりなさい。」

(ヨハネ福音書15章9節)

1911年12月9日 札幌にて出生
幼児洗礼
1937年 4月3日 司祭叙階
1990年 1月19日 帰天 享年87才

十



使徒バルトロメオ

浅 井 正 三 神父

「あわれみ深い全能の神である父よ、罪深い
私をあわれみ罪をゆるしてください。
あなたの愛の神秘を深く悟らせ、これに
こたえる愛の火を燃えたたせてください。」

(浅井師が愛された祈り)

1914年 8月25日 東京にて出生、幼児洗礼
1939年 3月18日 司祭叙階
1990年12月16日 帰天 享年85才

十



フランシスコ・ザベリオ

林 信 夫 神父

私は静かに神を待つ。
私の希望は神のうちにある。

(教会の祈り 詩編62)

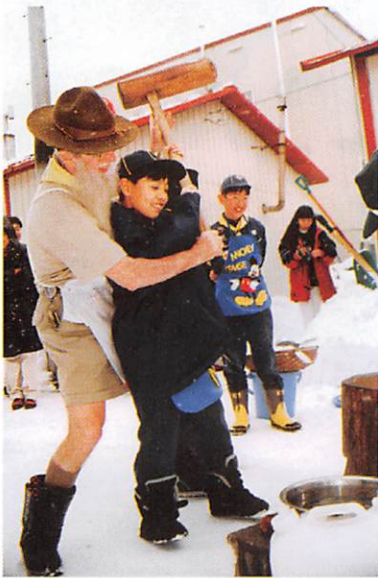
1920年12月8日 出生
1921年 1月 受洗
1951年12月21日 司祭叙階
2001年 6月13日 帰天 享年80才



カリスを捧げる地主司教



カラフルな復活の卵に埋まる祭壇



恒例の餅つきで新年を祝う
B.S札幌26団



司教司式にちょっぴり緊張して



熟年工作隊 何でも直します



大聖年の復活祭に受洗して



司教様から卵を頂く



'97年復活祭パーティー



'97年復活祭パーティー



'95年7月 大掃除の後の昼食会



'98年8月16日 初聖体



バザーの一駒



'01年バザーで一六会の面々



'95年11月3日 トラピスト修道院 巡礼の旅始まる



'97年 新田教会訪問



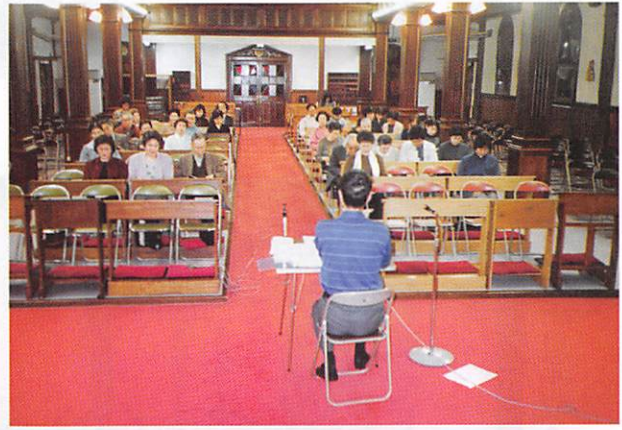
'97年8月 第2回巡礼の旅 藤の園



'98年 長沼・夕張教会訪問



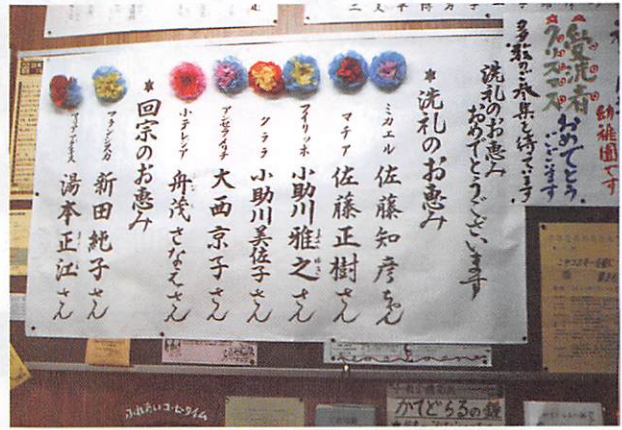
'98年10月4日 長沼教会小聖堂



大聖年聖書巡礼の旅



クリスマス洗礼式を終えて '97年12月24日



クリスマス洗礼式を終えて '97年12月24日



2001年クリスマスパーティー



◀ 荒木関孝神父様
池島亟羽神父様
叙階25周年記念
藤原重代先生
カテキスタ50周年
記念式典
1981年11月29日



献堂80周年記念ミサ 1996年11月17日



堅信祝い・今田玄五神父銀祝・地主敏夫司教霊名祝い 2001年6月24日

信友会の近況と記念事業の概要

会員総数（2000年12月31日現在）

札幌教区登録者 644名

歴代信友会長

宣教100年以降、信友会長として奉仕された方（敬称略）

1976年（昭和51年）4月～1990年（平成2年）3月 阿部 昭 二

1990年（平成2年）4月～1995年（平成7年）3月 大野 秀 夫

〈会則改正 1995年5月28日〉

1995年（平成7年）4月～1999年（平成11年）3月 稲 上 博

1999年（平成11年）4月～2001年（平成13年）3月 藏 田 親 義

2001年（平成13年）4月～ 石 井 志 郎

2001年度世話人（敬称略）

信友会会長 石 井 志 郎

青年会代表 葛 西 啓 史

同上副会長 小助川 克 顕

典礼委員会代表 船 木 ひ ろ

〃 鈴木 庸 子

広報委員会代表 櫻 谷 政 雄

男性部代表 阿 部 博 道

チャリティー委員会

女性部代表 小 板 幸 子

代表代行 武 田 俊 一

教会会計係 小 川 登 摩

信友会会計係 小 澤 昌 子

信友会会計係 平 中 京 子

宣教120周年記念事業

記念事業名	総事業費 (円)	経費負担	事業完了日	発注業者
復活のキリスト像 (関連工事費を含む)	838,363	教会	'97.12.17	
カーペット敷き替え	1,365,000	信友会	'98.03.17	エトピリカ池内店
玄関スロープ階段修理	2,779,350	教会	'98.08.08	王子緑化(株)
トイレ改修	6,500,000	教会	'00.11.10	(株)ライフ札幌西
祝典・祝賀会	68,858	信友会	'01.10.28	
120周年記念誌	900,000	信友会	'02.03.31	(有)天使印刷所
取材、編集等諸費用	89,668	信友会	'99.9～'02.03	

120周年記念事業委員会（50音順、敬称略）

1997年～1999年 8月

浅井 太郎、阿部 洋子、石川 外男、伊藤 昌子、稲上 博、小川 登摩、
北村 邦子、武田 俊一、田中 カツ、村田 忠良

1999年 9月以降

稲上 博、遠藤美智子、小河 喜一、藏田 親義、武田 俊一、村上佐喜子、
石井 志郎（2001年 4月以降）

同上建築小委員会（50音順、敬称略）

稲上 博、藏田 親義、小林 法道、櫻谷 政雄、高橋 徳^名
（協力委員） 大野 弘子、細木 静子、田中 寛、田中 カツ

同上記念誌小委員会（50音順、敬称略）

石川 外男、遠藤 雅夫、小河 喜一、河西 孝、東海林淳子、武田 俊一、
平中 忠信、皆川 咲

主 要 文 献（順不同）

「70周年記念誌」	カトリック北一条教会	1952年
「90周年記念誌」	カトリック北一条教会	1971年
「100周年記念誌」	カトリック北一条教会	1982年
「カテドラルの鐘」	1947年～2001年	カトリック北一条教会
「カトリック札幌教区時報」		カトリック札幌司教館
小野忠亮「北日本カトリック教会史」		中央出版社 1970年
小野忠亮「宣教師・植物学者フォーリー神父」		キリシタン文化研究会 1977年
仁多見巖「北海道とカトリック」（戦前編）		1983年
仁多見巖「北海道とカトリック」（戦後編）		1987年
「新札幌市史・通史2～4」		札幌市 1991～1997年
「日本キリスト教歴史大事典」		教文館 1988年
「日本のカトリック教会史年表」		カトリック中央審議会
オニール「北海道 司祭 帰天者簿」		カトリック静内教会 1997年

題字揮毫のことば

神のはからいは限りなく

私は富山生まれの富山育ち。幼少のときに父と母はうつせみのこの世より旅立ち、姉兄の庇護のもとに成長する。1941年12月太平洋戦争が勃発、45年8月、日本の敗戦により終結。私はこの始まりから終わりまで軍役に従事する。

富山に歩兵連隊があったが、私は金沢の師団通信隊に入隊に始まり、北部方面軍直轄の北海道帯広の電信連隊に転属、そして二度、樺太防衛通信網構成のため樺太島に渡る。(同期兵は南方戦線の部隊に赴任の途中多くが南海に散る。) 私達二度目の派遣隊は終戦を豊原(いまのロシア領ユジノサハリンスク)で。そして帯広の原隊より帰還命令。

ソ連軍の大泊(コルサコフ)上陸が明日という状況下に派遣隊は大泊に到着。樺太よりの避難民を乗せた最終船は既に出港の後であった。大泊港にはなお数隻の大型船舶が停泊中であったが、出港停止命令下にあると乗船拒否、それらの船舶は夜に入るや出航。(翌日留萌沖、網走沖でソ連潜水艦に撃沈された情報が入る。)

私は若く独り身、しかしこの派遣隊の30数名の部下は何れも40才代の家族もちの応召兵。この隊員達が故郷に帰れるためにはなんとしても樺太島を脱出、原隊に復帰したかった。夜が進み風雨も勢を増してきたところ樺太の緊迫した情勢を知らず稚内から一儲けをもくろんだ小型船が入港。ソ連潜水艦に対する警戒操船、悪天候に対する安全強化を委ね、部隊全員、樺太よりの脱出遅れの民間人も積荷と同様の状態で乗船出港、平常時の3倍近くの時間を費やし、ソ連潜水艦の襲撃と暴風雨の難を免れ稚内港に上陸、原隊に全員無事帰還する。富山は戦中、アメリカ空軍の猛爆を受け、全市街焼野原と化す。私はさきに復員帰郷した旧隊員の好意で北海道名寄町の同氏宅に寄寓する。

あるとき、私のいまの家内の姉さんが読んでみませんかとさりげなく差し出されたのが「真理の本源」という小冊子。一読後、キリスト教会の門を叩く。その教会がカトリック名寄教会で、主任司祭はドイツ・フルダ管区から宣教来日のユスチニアン・ヒンツ神父さまでした。洗礼のお恵みをいただき神さまの子に加えられる。

短い溪流のような時代が過ぎて、いろいろの変転を味わいながら喜怒哀楽の80年。この6年程前から心肺疾患でお医者さまと仲良くなり、或る一時期、心臓冠動脈拡張術中に生死の境で足踏みのこともあった。いまの私の運動能力は元気な小学生にも及ばない。こんな私でも生かしておいてくださる。

神よあなたの思いはきわめがたく そのすべてを知ることはできない

あなたのはからいは限りなく 生涯わたしはその中に生きる

(典礼聖歌集53番、詩編139のうち)

喜び 祈り 感謝のおさとしのうちに生きたい。

北一条教会の皆さん どうぞよろしく。

使徒のヨハネ 土 倉 昭

編集後記

「宣教120周年記念誌」編集委員として、本格的に出られる人を中心として集まったのが、教皇ヨハネ・パウロ2世の「新千年期の初めに」が世に出始めた、11月初旬のことでした。

この使徒的書簡のテーマである、「沖に漕ぎ出でなさい！」(ルカ5：4)に勇気づけられて、スターとしたものの不安でいっぱいでした。

ところが、動き始めると、歴史の専門家がいて取材に割付にと、また、90年誌の経験者が助っ人で、助言や家宝ものの古い写真を貸し出してくれたり、写真の撮影はといえば元プロカメラマンが登場したり、神様は必要なときに必要な人や物を用意してくれました。

また、わたしたちが主だった人を求めていると、「委員長」という方を送ってくれ、完成へと巧みに導いてくれました。

本当に、「主の山に備えあり」とはこのことでした。(創世記22：14)

この記念誌は、歴史的にもじっくり考証され、この「宣教120周年記念誌」が、始まりの今日である1日となり、そして、無限、永遠の1000年に向うものと自負できるものが出来ました。(ペトロの手紙二3：8)

それゆえ、この「宣教120周年記念誌」の主人公である、今ある兄弟姉妹とこれから後の世の兄弟姉妹に自信を持って献げたいと思います。

また、経済的にも時間的にも豊かではない教会には、強力な援軍が現れました。

印刷をお願いした天使印刷所さんです。印刷料金では泣いていただき、納期も指定して、ここでも、かなり厳しいことを要求したにもかかわらず、粛々、淡々と仕上げてくださいました。近々の100年誌は祝賀ミサ後、1年数ヶ月を要しましたが、この記念誌は、5ヶ月で完成いたしました。ここに、天使印刷所さんの皆様には心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

今は、ただ、「喜び、祈り、感謝」という美酒でお祝いしたい心境です。神に感謝！

一人の編集子より

記念事業の終わりに

記念誌の発行をもって事業のすべてが終わる。そんな思いから身の程も弁えず、何時しか編集会議に顔を出すようになりました。

記念誌委員会が発足してから2年半の時流れ、この間幾度となく編集会議を積み重ね、特に式典終了後は、ほとんど毎週、土曜日毎に集まって準備を進めて参りました。

また、たくさんの写真と資料を提供して頂いた遠藤雅夫氏にも参画して頂き、大きな力を頂戴しました。

この記念誌は、可能なかぎり過去の史実を調査し、教会創設の時期や司祭の動向などについて考証を重ね、司教様のご意向も伺ってまとめたもので、現時点でもっとも信頼できる歴史書と自負しております。

その為に精力的に取材に調査にと奔走して頂いた方、たくさんの資料を集約し、整理して下さった方、年表作成に時代考証にと努力を重ねられ、そのうえ割付の為に2週間も教会に通い、独りで頑張っておられた方、等々委員の方々にも本当にご苦労をお掛けしました。そして原稿をお寄せ下さり、資料の提供を頂いた多くの方々にも心より御礼を申し上げます。

この書によって多くの方々に、とりわけ21世紀の主役となる方達に、優れた先達の血のにじむ努力とエネルギーを感得し、過去を知り、未来を探る手懸かりとしてほしいと願っています。20ページに及ぶ、精細な年表に依って教会の歴史を学んで下さい。

また100周年以降の通史にも力を注いで頂き、我々の責務を終えることと致しました。120周年記念事業がスタートしてまる5年、巻末に記載したとうり延べ35名の方に委員として係わって頂き、委員以外にも多くの方々にご支援・ご協力を頂戴しました。正に教会を上げての事業となり、成功裏に終了したと思います。司教様を始め神父様がた、そして会員の皆様にも心より御礼申し上げて「あとがき」とさせていただきます。

記念事業委員長

「喜び、祈り、感謝」 テサロニケの信徒への手紙5章15節
カトリック北一条教会宣教120周年記念

2002年3月31日発行 復活の主日

発行 カトリック北一条教会 主任司祭 今田 玄 五
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目
TEL (011)231-4189

編集 カトリック北一条教会信友会
「宣教120周年記念事業委員会記念誌小委員会」

印刷 有限会社 天使印刷所
